スイカズラ科 ノヂシャ属

ノヂシャ（野萵苣）

Valerianella locusta (L.) Laterr.

自生環境

土手、野原 など

原 産 地

ヨーロッパ

予想される被害

種子でよく繁殖しますが、小さな草で、今のところ大きな影響はなさそうです。とはいえ、スミレ類やカントウタンポポなど、日本在来の野花の生育場所を狭める可能性はあります。

市内の分布状況

市内では、利根川･江戸川･利根運河の堤防斜面にかなり多く生えています。その他、日当たりのよい乾いた芝地で散発的に見られます。

特　徴

- 野菜として栽培されるようになったのは 17 世紀以降で、日本でも明治期に導入されたことがありました。現在国内ではあまり栽培されず、各地で野生化したものが見られる状態です。
- 秋から冬にかけて発芽し、ロゼットの状態で越冬、翌 3 ～4月頃に開花した後、梅雨入り前にはタネを残して枯れてしまう越年草です。茎は 2 本ずつ分岐し、高さ 40cm ほどになります。葉は向かい合わせにつき、茎の先のほうにつくものは縁が少しギザギザすることもあります。
- 花は直径 1.5mm 程度と小さく、薄い水色。茎の先に多数の花が集まって咲きます。従来はオミナエシ科に分類されていましたが、近年の DNA 解析をもとにした新しい分類体系ではスイカズラ科になりました。

サラダ用野菜として

日本では「外来雑草」としての扱いを受けているノヂシャですが、ヨーロッパでは野菜として広く栽培されています。葉にアクやクセがほとんどなく、とても食べやすい緑黄色野菜です。ベビーリーフと同様に、葉を生のままサラダに入れるとなかなか美味です。コーンサラダやラムズレタス、マーシュなどの別名もあります。近年は日本でも家庭菜園用の苗が流通しています。

わぴちゃんねる　千葉県野田市の植物を動画で紹介！

https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBJegnWATWd-UZsNzCA